



## CSR活動を通じて地域社会の活性化に貢献

株式会社中尾組 奈良県桜井市

株式会社中尾組は、大正4年という県内建設業者の中でも早い時期に創業している。競合他社に比べて技術力の向上に努め、仕事の質の高さを追求してきた。又、売上高より利益を重視した経営を貫いてきた結果、現在も奈良県の建設業者では手形を発行しない企業である。又、同社の全役職員は自社の業績伸展だけではなくCSR活動（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を通じ常に地域の発展のために何が出来るかを考えて行動している。このような地道な活動により顧客との信頼の絆が太くなり不況の時代にあっても健全な経営が維持できている。

### 会社概要



会社名：株式会社中尾組  
本社：奈良県桜井市桜井 553-1  
電話：0744-42-2500  
FAX：0744-45-5334  
創業：大正4年（1915年）4月  
設立：昭和32年（1957年）6月  
代表者：代表取締役社長 中尾 隆成  
代表取締役専務 中尾 七隆  
資本金：7,000万円  
従業員：41名（一級建築施工管理技士22名・同土木施工管理技士13名・一級建築士10名）  
事業：建設・土木工事業  
URL：<http://www.nakaogumi.co.jp/>

### 次世代の子供達が根付くために貢献する企業へ

中尾社長が中尾組に入社した昭和57年は、高度成長期で現在の中国のような建設ラッシュであった。その頃、建設業界はどの業者も護送船団で守られ、政治主体の営業をすれば受注につながり儲かる時代であった。しかし、小泉政権以降、国土交通省が打ち出した新たな政策により、この業界もまじめな業者しか生き残れない、脱談合の業界に変化してきた。

その後、民主党政権になり「コンクリートから人へ」と政策が変わり、一層建設業界は厳しくなり、日本経済も落ち込んだのが現状である。やはり日本は島国で災害が外国に比べて多い国で、特に奈良県はまだまだインフラ整備が遅れており公共事業が必要である。そこで、同社は先導的に国の補助事業を活かし、仕事・雇用を生み、次世代の子供達が根付くために、建築関連団体や大学、NPOなどの協力を得ながら、新たな連携体を組織し、積極的に国土交通省が募集する事業にチャレンジしている。また、地産地消の考えから可能な限り地元企業の力を借り、お金は地元で廻すよう取り組んでいる。

### 取引業者を大切にすることで業績を上げる

社長は、売上高重視の業界のなかで、常々技術



本社社屋



第2回林野庁長官賞最優秀賞  
第8回奈良県景観調和デザイン賞知事賞  
社会福祉法人 飛鳥学院保育所

と顧客満足度の向上を従業員に言い続けてきた。全国的に公共工事の発注が逡減しているにもかかわらず、同社は公共工事部門の収益を維持している。その要因の一つが、少数精鋭の職員により高い施工評価を受け、総合評価方式に勝つことである。

民間企業においては長引く不景気のため工場などの新設工事発注が少なくなっているが、同社では数多くの顧客との長いつき合いのなかで、メンテナンス対応をきっちり行うことで堅固な信頼関係を構築している。

代々同社の社訓となっている「無借金経営に徹し、気持の上で余裕をもって仕事をする事」を、現社長も守り抜いている。また、建設業界にあっては取引業者から請求後、三ヶ月、六ヶ月支払いが常態のなか、同社は請求後、一ヶ月支払いである。これはほんの一例であるが、他社よりも好条件で取引業者を大切にすることで、質の高い取引業者が同社には集まってくる。こうした好循環が質の高い工事実績に繋がっている。

## ISO9001ならびにISO14001に早くから取り組む

同社は平成13年に品質管理ISO9001、そして平成14年に環境マネジメントISO14001を外部委託せずに役職員自らがノウハウを習得し取得・登録した。現在も管理責任者として職員がISOを維持・管理している。同社がISO取得した主な目的は、単に無駄をなくしてコスト削減をするだけでなく、顧客満足度の向上という観点から地球環境や健康に配慮した設計・施工を行える企業を目指しているからである。



全社で取り組んでいるCSR活動

## CSR活動を通じて顧客や地域に貢献を行う

5年前、現社長に代替わりしたのを契機にCSR活動に取り組んできた。この活動により、全役職員が顧客や地域からの要請・要求（環境問題、雇用創出、地域貢献、品質管理など）に応えるために何を必要とする必要があるのか、ということを中心に考えるようになった。

平成21年度、同社はCSR活動の一環として、国土交通省の「建設業と地域元気回復事業」に取り組んだ。この事業は、同社が事業構成員の一員となり地元地域を元気にするために、日本酒発祥の地、三輪で今西酒造の協力により、造り酒屋の空き家を活用。太陽光や奈良県地域認証材を活かした三輪中町ギャラリー「醸」<sup>かもす</sup>を造り、まちづくりの発信拠点として観光客誘致を仕掛けている。



三輪中町ギャラリー「醸」<sup>かもす</sup>

また、平成23年度～24年度、同社が事業

管理者となり国土交通省の「建設企業連携によるフロンティア事業」に取り組んでいる。この事業は町家に特化した改修・新築市場の拡大により歴史まちづくりに貢献するために、林業・木材業・建設業・大学・建築士・NPO等による構成員が連携し、古都奈良にふさわしい家屋を提案している。

## 元気な地域に復活することを期待して

このようなCSR活動は、地域活性化の活動を通じて自然と同社のPRになっている。社長は、直接自社の売上や収益に結び付かない活動であっても、地域の皆さん（＝お客様）に喜んで頂けるように、CSR活動を今後も引き続き行い、もう一度元気な地域に復活することを願い、取り組んでいる。（武村好俊）